

「絵とは何か」

(会員投稿)

埼玉西支部 千木良 宣行

猛暑の八月十四日定例勉強会は、暑いし、お盆ではあるし、何人集まるか分からないが、いつものような実技(人物が多い)勉強ではなく、「絵とは何か」について、みんなで話し合うことにした。私自身、会社を辞めてから20年、新日美にお世話になって、ずっとと厳しい一人修行を続け、「(本当の)絵とは何か」を問い続けてきた。ここ数年その一つの答えは、「絵とは「美」であり、「内面世界を、外在世界に置き換えること」とだと、自分なりに分かっけてきて、ただの写生ではなく内面を心を描くようにしているが、八月の勉強会で、この点を皆さんで話し合うことにした。何しろややこしい話だし、暑いしお盆だし、何人来るかと思っいたら、意外に通常の例会なみの出席者数で、驚いた。

いわば芸術とは何かというような、あまりにも壮大なテーマだから、結論など出せるものではない。しかし、いつかこの問題と正面から向き合わねばならないと、私は思い極めてきた。「群盲象を撫でる」の諺通り、私達凡人が「美」という高貴で偉大なモノを思うとき、目の不自由な人が象の一部を触って、「これが象だ」と思うようなものだろう。しかし凡人だからこそ、みんなそれぞれ別の考えを述べ合っって、お互いを理解しあい、絵の「美」の途方もない偉大さ巨大さを感じとれば、それでいいと思った。絵は一人で描けるほど、生やさしいものではない。描くのは一人だが、人の心は常に不安定で山や谷がある。低調なときには仲間から影響を受け、また作品を仲間の目に晒すことで、一人よがりになるのを防ぐ。そこに新日美やまた埼玉西支部が存在する、大きな意義がある。

以下「絵とは何か?」について語り合った、みなさんそれぞれの意見を簡略に記す。

- ・描くことによって、気分がチェンジできる。リフレッシュする。



絵とは何か千木良支部長の提案で皆で考えてみる

- ・落ち込んでいるときは、描きたくない。描きたいときに描く。
- ・絵とは、生涯離れられないモノ。描くときは、気持ち安定している。
- ・仕事を退いて何かやることはないかと始めた。描くのは楽しいが、未だ内面世界までは考えられない。
- ・自分を表現したい。心を形にするもので、常に不満足。
- ・描くことで、自分が幸せになれるモノ。描き出すと、どんどん描いてしまう。描いていると嫌なことも忘れられる。
- ・理想を言えば、生きる証(あかし)。目的がハッキリしていると、描きやすい。
- ・得意なものは絵。絵が描ければよく、何か見ていると描くことが浮かんできてくる。
- ・生きるすべて。絵のない人生は考えられない。
- ・売れる売れない、後世に残る残らないはともかく、描いて旅ができるのが幸せ。ここまできたら精一杯描き、悔いのない生き方をしたい。
- ・50年以上描いているが、未だに絵とはなんであるか分からない。
- ・何を描きたいのか、描きたいものが分からない。(旅絵師からのアドバイス:日常生活を)

離れ、心を揺ると良い。:例えは旅、日帰りでも可。絵描きにとつて、旅は食事と同じ。イーゼルの前でじっとしていても、描きたいものは見えない。心を動かし、ときめかせるためには、出掛けるのを億劫がらないこと。金がなくても、旅は出来る。)

- ・絵と花が好き。描くことは自分だけの世界、自分だけの世界は魅力的。それに美術館も魅力がある。

最後に支部員で、東京デザイナー学院講師の若槻紘志さんに総括していただき、「内面世界」心も大切だが、実在世界も大切ということ、構図・色彩・遠近法・デッサンなどについて、ピカソ・モネ・マティスなど数多くの巨匠たちの例をあげて、資料を沢山準備して説明して下さい、そして結局絵は「心で生まれて、心に育ち、心に還る」というように、感動や創意など、目に見えない世界を捉え、自分で納得できる絵が描ければ、それで良いのではないか」ということだった。多くの意見に共通しているのは、意外なことに「絵は生きることにむすびついてる」という考えだった。確かに生老病死の苦悩からは、決して逃れられない弱い私達、絵を描くことは生きる勇氣、生きる力をあたえてくれる。売ろうとか、有名になろうとか、後世に残そうとか、欲の心で考えると、描くことに疑問が生じ悩みになるが、描くこと自体を喜びとすれば、心は平穏で幸福に満たされる。

そして、「絵は心の自画像なり」で、自分の心(内面世界)を見つめて自分なりに描いていけば、いつか認められるかも知れないし、例え認められなくても、歓びの日々の積み重ねはこの上ない財宝である。

「今日は無理して来てよかったわ」の声も聞かれ、初めての試みは大成功だった。が、今私には支部員の皆さんが、頭で絵を理解しようとするのではないかと、危惧の念がある。考えることも大切だが、絵は何より実践が大切である。一枚でも多く描く、デッサンする。そのために9月から、また実技中心の支部活動に戻したい。

スケッチ実施報告と次回予定 事業部 一柳 幸

日比谷公園 2011-7-6(水)

酷暑の7月とはいえ日比谷公園の森陰で涼風を受けての写生はなかなか快適だ。心字池の石垣と池の水との対比、樹々間から見える西洋庭園、などいずれも絵心を誘う。「緑陰に ハーモニカを聴く 写生かな」とハーモニカを吹く「おじさんが」いたのも微笑ましい充実した一日でした。

白金自然教育園 2011-8-26(金)

天候不順の蒸し暑い一日、白金の森は重苦しい緑に包まれている。明るい陽射しに救われた様なスポットが「ひょうたん池」で、ここに一同イーゼルを立てた。ひととき白鷺が池畔に姿を見せ日本画のような風景に一瞬筆をとどめた次第。夕立ちを避けるべく早めに画具をたたみ蕎麦屋で暑気払い、それも束の間雷鳴轟き帰路を急いだ。

「雷一閃 夕立 傘を開かせず」といった激しい豪雨に見舞われ商家の軒下に釘付けとなった、という顛末でありました。

次回予定

当日 7 時の天気予報で降水確率 50%を超える場合実施中止にします。

「谷中夕焼け段々」 2011-9-29(木)

現地 段々上 10 時集合 (JR日暮里駅西口より西へ約 100m)

「駒込 六義園」 2011-10-18(火) (日程変更注意)

現地 東南入口門前 10 時集合

「東大構内秋景」 2011-11-25(金)

東大赤門入口 10 時集合